

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の欠落等については、一つごとに1点減点する。尚、同一の誤字、送り仮名の誤りの繰り返しについては、1点だけの減点でよい。

問一 《理系用採点基準》

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点12点 ※理系は12点。文系は10点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 日本の文壇には、文学は方法などでは解決できない作家の人間の問題だという頑固な通念が存在するので、
B
C
D E

文学の創作を方法という功利的な感じの強い言葉で表現することを忌避するような雰囲気が存在していたから。

■要素A 「日本の文壇には」…2点

■要素B 「文学は方法などでは解決できない作家の人間の問題だ」…3点

■要素C 「頑固な通念が存在する」…2点

■要素D 「文学の創作を方法という功利的な感じの強い言葉で表現する」…3点

■要素E 「忌避するような雰囲気が存在していた」…2点

■要素F 文末表現は「…から・ため・ので」といった形が原則。但し、理由説明の答案として挙証しうる形なら可。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

問二 ※別解あり

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

文学を宗教的な意味での鍛錬道、修業道と考へ、人間の生き方のそのままの報告として書かれている私小説

B

C

に対する、それでは芸術として成立し得ないという焦燥感。

D

■要素A 「文学を宗教的な意味での鍛錬道、修業道と考へ」…3点

■要素B 「人間の生き方のそのままの報告として書かれている私小説」…2点

■要素C 「(私小説は) 芸術として成立し得ない」…2点

■要素D 「焦燥感」…1点

■要素E 筆者の「思い」を説明する答案として妥当な文末表現であると判断できれば広く許容してよい。
不適切な形であると判断される場合は1点減点。

■別解 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

B

文学は修行道ではなく、芸術なのだから、ただあるがままの生活の描写に甘んじるのではなく、

C

より効果的な作品を作ろうという意識があつてしかるべきではないかという思い。

■要素A 「文学は修行道ではなく、芸術なのだから」…3点

■要素B 「ただあるがままの生活の描写に甘んじるのではなく」…2点

■要素C 「より効果的な作品を作ろうという意識があつてしかるべきという思い」…3点

■要素D 筆者の「思い」を説明する答案として妥当な文末表現であると判断できれば広く許容してよい。
不適切な形であると判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点10点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A B C

文学の方法を、生きる方法とする私小説と、描く方法とする芸術至上主義の二つの在り方は、それぞれの作

D E

家の中に重複し助け合うものとして種々の割合で併存している。

■要素A 「文学の方法を、生きる方法とする私小説」…3点

■要素B 「(文学の方法を)描く方法とする芸術至上主義」…3点

■要素C 「(二つの在り方は、)それぞれの作家の中に」…1点

■要素D 「重複し助け合うものとして」…2点

■要素E 「種々の割合で併存している」…1点

■要素F 筆者の考えをまとめた答案の文末表現として妥当であると判断されるなら広く許容してよい。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点10点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 小説では、作家が他者の評価や迷惑な思いなど無視して、己の生き方を貫き、それを技巧など交えず作品

に書く行為が、良心的態度という形で一貫しているということ。

E

■要素A 「小説では」…1点

■要素B 「作家が他者の評価や迷惑な思いなど無視して」…3点

■要素C 「(作家が)己の生き方を貫き」…2点

■要素D 「技巧など交えず作品に書く行為」…2点

■要素E 「良心的態度という形で一貫している」…2点

■要素F 文末表現は「…(という)こと」という形が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

【第三回京大模試理系第二問】

二

問一

① ならんら違ひを持たない普遍的画一的な人間の發育の遺傳的プログラムから、

② 言語や文化の多様性が生じたという考えは、

③ 一見すると通説に反したものに思われるということ。

・ ①＝2点、②＝2点、③＝5点で。(計9点)

①〈發育の遺傳的プログラムは、人間という種に共通であり、普遍的画一的なものである〉or
ならんら違ひを持たないものである〈この説明ができてゐること。単に「共通のもの」と
だけして、「普遍的」「画一的」「特殊性をもたない」など、「多様」の対義語と認識できる表
現がないものは、1点。「共通」と「多様」が対立した概念であることがわかるような表現
になつていれば可。したがつて、「共通」という表現しか用いてなくても、②のポイントに
おいて「多様」の説明として、「相違」などの表現を用いていれば3点。

② 〈その遺傳的プログラムが〉言語や文化の多様性を生じさせた〈この説明ができてい
ること。

③ 〈これは〉一見すると、通説に反したもののよう思われる〈この説明ができてゐ
ること。通説の具体的な内容に言及していてもかまわないが、その場合「多様性は多様性から
生じる」という内容から外れているものは不可。「一般的に真理と認められるものに反する」
という逆説の辞書的意味を説明した内容になつていれば表現の違ひは広く許容する。

問二

① 国や民族や人種、時代などによって個人個人が置かれる環境の違いはあるが、
② 人間の遺伝的プログラムに違いはなく、

③ それを具体化していくということも同じであるということ。

・ ① ≪ 5点、② ≪ 3点、③ ≪ 3点で。(計 11点)

① 〈国や民族や人種、時代などによって個人個人が置かれる環境の違いはある〉ことの説明ができていないこと。「国・民族・人種」の表現は必要としないが、単に「時代によって違いはある」とだけして、「個体の置かれた状況の違い」に言及した表現がないものは2点。

② 〈しかし〉人間の遺伝的プログラムは共通している〉ことの説明ができていないこと。

③ 〈(また) 遺伝的プログラムを具体化していくことも共通している〉ことの説明ができていないこと。

問三

① 個人の境遇の問題は、

② 各個人の置かれた状況における遺伝的プログラムの具体化の過程の問題であるにもかかわ
らず、

③ 遺伝的プログラム自体の問題だと考えてしまうということ。

・ ① ≡ 3点、② ≡ 3点、③ ≡ 4点で。(計10点)

① 〈個人の境遇の問題を考えるにあたって誤解が生じる危険性がある〉ことの説明ができて
らぬこと。

② 〈個人の境遇の問題は〉実際には個人の置かれた状況における遺伝的プログラムの具体
化の過程の問題である〉ことの説明ができていないこと。

③ 〈個人の境遇の問題は〉個人の遺伝的プログラム自体の問題であると誤解する〉ことの
説明ができていないこと。

三 古文 30点

▲ 内容説明の設問では、末尾の句点がないものは▲1点減点。ただし、現代語訳の設問では、句読点は不問。

問一 10点

【模範解答】

私はあなたに、皇后温子様に宮仕えしていただきたいと思っていましたのに、いったい私がいつ弟の仲平様に仕えてくださいなどと言いましたか、いいえ、そんなことは言っていないよ。(84字 3行)

A 宮仕へをせよとこそ思ひしか、

5点

B 君達をとやはいひし。

5点

A 次の1〜5の要素に関して、相当する記述があれば1点ずつ加点する。

1 「思ひしか」の主体 〓 私は（一人称ならよい。B・1に記述があれば1点）

1点

2 「宮仕へをせよ」の客体 〓 女御温子様に（女御に／温子様に／御息所に）

1点

3 「宮仕へをせよ」の解釈 〓 宮仕えしていただきたい／お仕えしろ／仕えてほしい

1点

4 「思ひしか」の解釈 〓 と思っていました／と思っていた／と思った

1点

5 「…こそ…しか、」の解釈 〓 のに、／けれど、／が、

1点

B 次の1〜5の要素に関して、相当する記述があれば1点ずつ加点する。

1 「いひし」の主体 〓 私が（一人称ならよい。A・1に記述があれば1点）

1点

2 「いひし」の客体 〓 あなたに（二人称ならよい。Aにこの記述があれば1点）

1点

3 「君達を」の解釈 〓 弟の仲平様に／仲平様に／女御の弟に

1点

4 「君達を」の省略された述語 〓 仕えてください／宮仕えしていただきたい／お仕えしろ／仕えてほしい

1点

い 5 「やはいひし」の解釈 〓 と言いましたか（いいえ、そんなことは言っていないよ。／と言ったか

1点

（いいえ、そんなことは言っていない）。

1点

〈注〉会話文中の解釈なので、丁寧語や尊敬語が加えられてもよい。もちろんなくてもよい。

【模範解答】

私は心の中で、あなたのことを深く愛していたのに、そんな思いも無視して、公然と私の兄時平と結ばれてしまったあなたはひどい女だという、仲平の伊勢に対する怨嗟。(77字＝3行)

A 私は心の中で、あなたのことを深く愛していたのに、

3点

次の1～3の要素に関して、相当する記述があれば1点ずつ加点する。

1 「下に」の解釈＝心の奥底で／心の中で

1点

2 「我こそ深かったのみしか」の解釈＝私はあなた(のこと)を深く愛していた

1点

3 「…こそ…しか、」の解釈＝のに、／けれど、／が、

1点

B (そんな思いも無視してあなたは) 公然と私の兄時平と結ばれてしまった

3点

次の1～3の要素に関して、相当する記述があれば1点ずつ加点する。

1 「穂に出でて」の解釈＝公然と／誰の目にも明らかに／人目につくように

1点

2 「人に」の解釈＝(あなたは) 私の兄時平と／私の兄と／時平と

1点

3 「結ばれにけり」の解釈＝結ばれてしまった／親しい関係になってしまった／契りを結んでしまっ

1点

た

1点

☆ 「夫婦になる」は1点。

C 仲平の伊勢に対する怨嗟。

4点

次の1～3の要素に関して、相当する記述があれば、下記の得点を加点する。

1 誰の思いか＝仲平の

1点

2 誰に対する思いか＝伊勢に対する／作者に対する／女に対する

1点

3 どのような思いか＝怨嗟／恨み(の思い)／嘆き(の思い)

2点

◆減点の条件

文末表現が「…という **名詞** (を詠んだもの)。「…という思い (を詠んだもの)。」となっていない答案は、減

点1点

【模範解答】

自分は時平と深い関係にはなっておらず、もし、そんな関係になる男を選ぶとしたら、仲平以外にはないと、伊勢が仲平に対して弁明している。(63字＝2行)

A 自分(伊勢)は時平と深い関係にはなっていない

3点

次の1・2の要素に関して、相当する記述があれば、下記の得点を加点する。

1 「結ばれにける」の人間関係＝自分(伊勢)は時平とは／伊勢と時平とは／自分とあなたの兄とは

1点

2 「結ばれにける」の否定＝深い関係にはなっていない／契りを結んではない

2点

☆ 「夫婦になっていない」は1点。

B (私が)深い関係になる男は、仲平(あなた)以外にはない

4点

次の1・2の要素に関して、相当する記述があれば、下記の得点を加点する。

1 「同じうは」の解釈＝(私が)深い関係になる男は／(自分が)身をゆだねる男は／(私が)深く

2点

2 「ともかくもあらん」の対象＝仲平(あなた)以外にはない／仲平(あなた)だけだ

2点

愛する男は

C 伊勢が仲平に対して弁明している。

3点

次の1の要素に関して、相当する記述があれば、下記の得点を加点する。

1 「…が…に対して弁明している。」の説明＝伊勢が仲平に対して弁明している。／伊勢の仲平に対する

3点

弁明。

◆減点の条件

文末表現が「…が…に対して弁明している。／「…の…に対する弁明。」となっていない答案は、減点1点

以上